

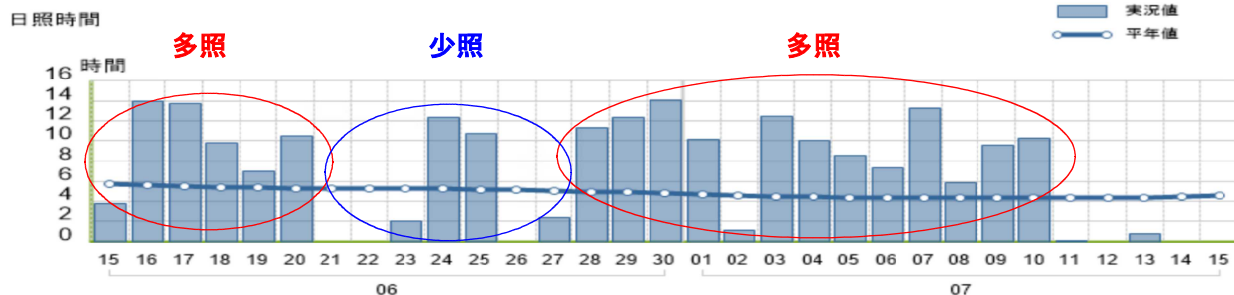
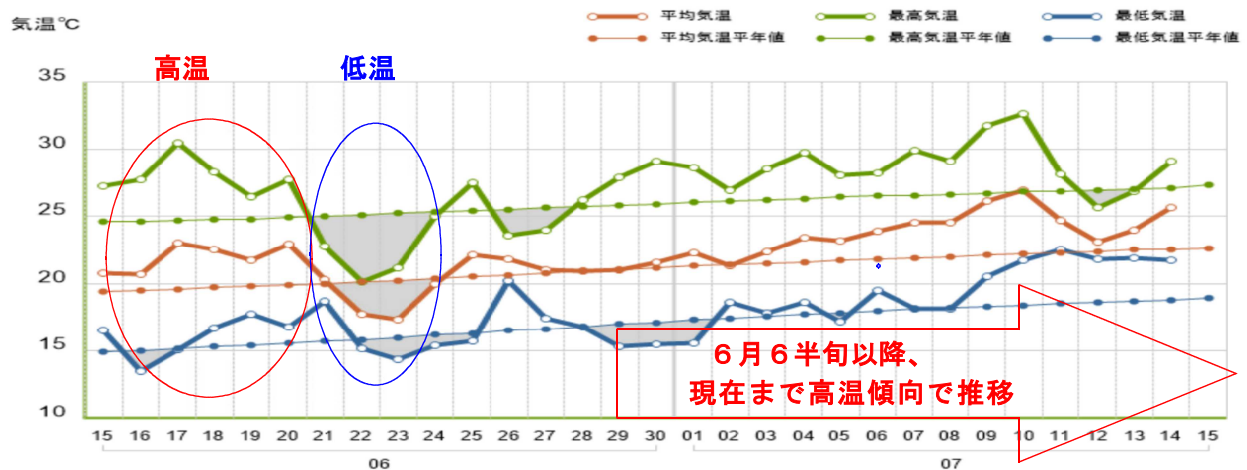
雄勝地域の

稲作だより

令和8年7月15日
雄勝地域振興局農林部
農業振興普及課
TEL 0183-73-5180
FAX 0183-72-6897

出穂期早まる見込み！いもち・カメムシ対策は万全に。
～これからの高温にそなえて適切な水管理を～

【これまでの気象経過】（アメダス湯沢：6月15日～7月14日）



	平均気温（平年差）	積算降水量（平年比）	積算日照時間（平年比）
5月上旬	13.7℃（+0.5℃）	28.5mm（110%）	65.8h（103%）
5月中旬	17.5℃（+3.4℃）	0.0mm（0%）	114.2h（210%）
5月下旬	18.2℃（+2.4℃）	48.5mm（163%）	86.8h（125%）
6月上旬	19.0℃（+1.1℃）	14.0mm（80%）	59.0h（71%）
6月中旬	20.7℃（+1.5℃）	2.5mm（7%）	94.6h（160%）
6月下旬	20.4℃（+0.4℃）	56.0mm（108%）	65.3h（132%）
7月上旬	23.9℃（+2.7℃）	9.5mm（19%）	88.7h（201%）

【向こう1か月の天候の見通し（7月11日～8月10日）】：仙台区気象台 7月9日発表

気温は高くなる見込みで、期間の前半は**かなり高くなる**見込みです。

期間の前半の天候は、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

期間の後半の天候は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

- 1週目（7/11～7/17）：気温は、高い確率が80%です。
- 2週目（7/18～7/24）：気温は、高い確率が60%です。
- 3～4週目（7/25～8/7）：気温は、平年並の確立が40%です。

【生育状況】

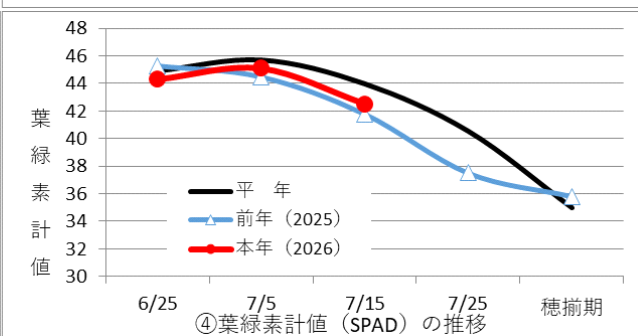
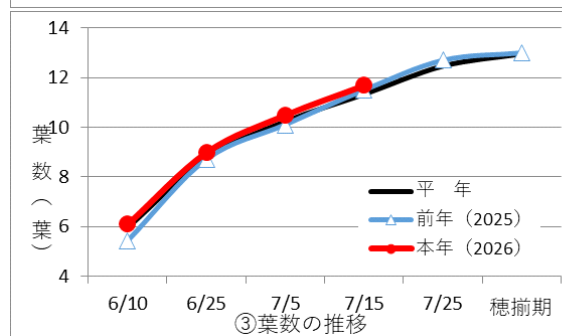
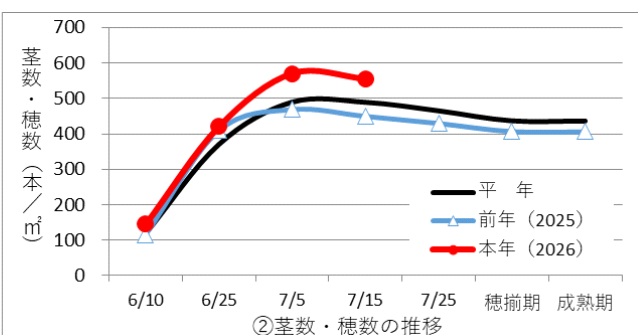
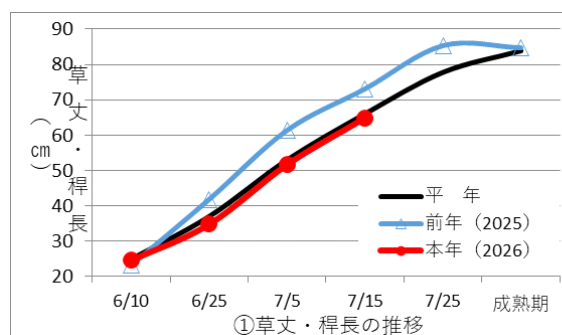
7月15日に実施した定点調査結果（あきたこまち8か所）は、草丈64.9cm（平年比98%）、茎数555本/㎡（同比113%）、葉数11.7葉（同差+0.4葉）、葉色（SPAD値）42.5（同比97%）となっています。

平年と比べて、草丈はやや短く、茎数は多く、葉数はやや多く、葉色はやや淡く推移しています。

ほぼ全ての調査地点で幼穂形成期を迎えています。7月15日現在の定点調査結果における生育量や栄養診断値（下表）は平年より大きくなっていますので、ほ場ごとに幼穂の発育を確認し、生育・栄養診断を基に追肥の判断をしましょう。

	6月10日調査結果			6月25日調査結果				7月5日調査結果			
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	24.6	145	6.1	34.8	420	9.0	44.3	51.7	570	10.5	45.1
平年	24.9	117	5.9	37	370	8.8	44.9	53	490	10.2	45.7
平年比	99%	124%	+0.2	94%	114%	+0.2	99%	98%	116%	+0.3	99%
前年	23.2	116	5.4	41.8	409	8.7	45.3	61.3	469	10.1	44.5
前年比	106%	125%	+0.7	83%	103%	+0.3	98%	84%	122%	+0.4	101%

	7月15日調査結果							※各数値はあきたこまち8か所の平均値
	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育量 ($\times 10^5$)	栄養診断値 ($\times 10^6$)	生育型	
本年	64.9	555	11.7	42.5	36.0	15.3	V-2型	※平年値は過去10年の平均値
平年	66.1	490	11.3	44	32.4	14.3	IV型	
平年比	98%	113%	+0.4	97%	—	—	—	※田植日平均：本年5月23日 (平年5月22日、前年5月22日)
前年	73	450	11.5	41.8	32.9	13.7	IV型	
前年比	89%	123%	+0.2	102%	—	—	—	



【当面の主要な技術対策】

1 今後の水管理について

7月15日に実施した定点調査では、ほぼ全ての調査地点で幼穂の発育を確認しています。

また、田植えが早かったところでは、幼穂形成期を早く迎えていますので、ほ場を確認し、下記のとおり水管理を実施しましょう。

あきたこまち（中苗）の出穂期予測（右表）では、出穂期が平年より2～5日早まるものと見込まれます。

※出穂期は、全茎数の40～50%が出穂した日。

※減数分裂期は、葉耳間長±0cmの主茎が半分以上みられる頃で、出穂期前10～12日頃です。

出穂期の予測		
田植日	出穂期	平年差
5月15日	7月29日	5日早い
5月20日	8月1日	4日早い
5月25日	8月4日	4日早い
5月30日	8月8日	2日早い

○品種はあきたこまち（中苗）。
○田植え翌日から7月14日まではアメダス湯沢の平均気温を、それ以降は平年値を使用。
今後の観測値によって、予測月日は変動します。

○ 幼穂形成期～出穂まで

幼穂の発育と一穂粒数の確保には、幼穂形成期以降にほ場の水分が適切に保持されていることが重要ですので、**間断かん水で土壌へ水分と酸素を供給し、稲体活力の低下を防止**します。

特に、この時期は根が地中深く伸長しますので、**成熟期後半までの登熟をスムーズに進めるため、間断かん水を心掛けましょう。**

中干しが十分に出来なかった場合や、生育量が不足して中干し開始が遅れたほ場では、中干し終了後の間断かん水で、**落水期間をやや長めにし、徐々に田面が乾くようにしましょう。**

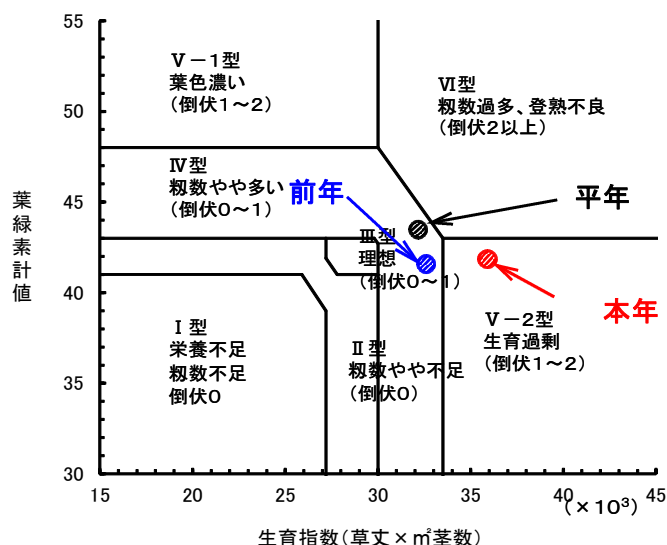
○ 出穂期

出穂の時期は、稲が最も水を多く必要としますので、出穂したら10日間は湛水管理（花水）とし、田面の水を切らさないように管理します。

2 あきたこまちの穂肥判断

① 穂肥は減数分裂期の追肥を基本とします。幼穂形成期の葉色が濃く、草丈が62cm以上、または減数分裂期に草丈が74cm以上で、倒伏の危険性が高まります。葉色が濃い場合は、穂肥を控え、必要に応じて倒伏軽減剤の散布を考慮します。

② 一方、**葉色が極端に低下すると、一穂粒数の減少や有効茎歩合の低下、登熟歩合の悪化等を招きます。**生育量・葉色・幼穂の発育状況等をよく確認しながら、窒素成分で1～2kg/10a程度を目処に、追肥を検討してください。



幼穂形成期における栄養診断（県南）

生育型	窒素追肥量(kg/10a)	
	幼穂形成期	減数分裂期
I 型	2kg	2kg
II 型	2kg	2kg
III 型	ムラ直し1kg	2kg
IV 型	なし	2kg
V-1 型	なし	ムラ直し1kg
V-2 型	なし	ムラ直し1kg
VI 型	なし	なし

（注）目標収量 570kg/10a、あきたこまち

○幼穂形成期（7月15日頃における）理想生育量（県南地域）

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育指数 (×1000)
理想値	62	463	10.9	42	28.7
上限値	64	484	11.0	43	30.0
下限値	60	443	10.7	41	27.2

※生育指数＝草丈（cm）×茎数（本/㎡）

○減数分裂期（7月25日頃における）理想生育量（県南地域）

	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)	生育指数 (×1000)
理想値	74	437	12.3	38	32.3
上限値	75	454	12.5	39	33.5
下限値	72	420	12.1	37	30.8

※生育指数＝草丈（cm）×茎数（本/㎡）

【倒伏軽減剤】

薬剤名	使用目的	使用量(10a)	使用時期	使用方法
ロミカ粒剤	節間短縮	2～3 kg	出穂25～10日前	湛水散布
スマレクト粒剤	節間短縮	2～3 kg	出穂20～7日前	湛水散布
ビビフルフロアブル	上位節間伸長抑制	75～100ml/50～150% _濃	出穂10～2日前	茎葉散布

- ③ 育苗箱全量施肥や肥効調節型肥料（100日タイプ）を使用している場合は、これから肥効が現れますので、基本的に追肥は控えましょう（生育状況によっては必要な場合もあります）。

3 病害虫防除対策

【葉いもち】

病害虫発生予察情報7月予報（令和8年6月30日：県病害虫防除所発表）では、葉いもちの全般発生開始期は早い、発生量は平年並と予報されています。

また、BLASTAM法による感染好適判定では、アメダス湯沢で6月22、23日に感染好適条件、6月9日、26日に準感染好適条件が訪れました。

ほ場を巡回し、葉いもちの発病がないか確認してください。

特に、葉色の濃いほ場や生育過剰なほ場では注意が必要です。



写真 葉いもちの病斑

＜今後の防除対策＞

- ① 田植え時に施用したいもち病防除剤の薬効は、7月中旬以降、低下してきます。
- ② 水田内で発病を確認した場合は、直ちに予防剤と治療剤の混合剤（ノンプラス剤又はブラシン剤）の茎葉散布を行います。その後、必要に応じて出穂15～7日前にコラトップ粒剤を散布するか、出穂直前（トライフロアブルかビーム剤）と穂揃期（トライフロアブルまたは、ラブサイド剤）に茎葉散布を行います。

【斑点米カメムシ類】

病害虫発生予察情報7月予報では、斑点米カメムシ類（第2世代）の発生時期は早く、発生量はやや多いと予報されています。

＜今後の防除対策＞

- 出穂期前の畦畔草刈りはそろそろタイムリミットです

出穂期に近い時期の畦畔草刈りは、斑点米カメムシ類を水田内に追い込んでしまうことになります。適期内（出穂期15～10日前まで）に繁殖地となる農道・畦畔、休耕田等の除草を地域でまわって行いましょう。

出穂期15～10日前までに畦畔草刈りが実施できなかった場合は、出穂後のカメムシ薬剤散布後、7日以内に実施してください。

次回の発行は、7月下旬の予定です。